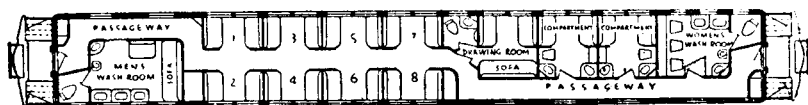


歐米再遊日誌 (6)

理學博士 山本 一 清

8月28日 (日曜日) 晴.

10時過ぎ、オマハ通過し、山岳帯時刻となる。20時半シエイヤン驛通過。何れも舊知の線で、窓外に珍らしいものは無い。車中で讀書。



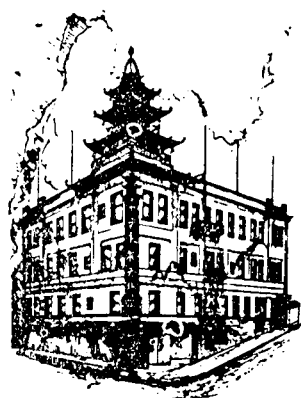
ゆつくりした米國の客車の内部

8月29日 (月曜日) 晴.

朝8時半オグデン通過、太平洋時刻となる。それから9時大鹽湖上を横切る。此所あたりは15年前、1923年の七月に英子と共に旅した所である。

8月30日 (火曜日) 晴.

8時半、豫定の如くサンフランシスコ市フェリ1驛着。ヤマト・ホテルに入る。それから領事館へ行つたが、今日は全米投票日で休み。次で NYK、パレス・ホテル等を訪ね、午後16時にブキヤナン街の日本人 YMCA に富澤氏を訪ね19時には同氏と共に、藤田ドクトルに招かれて晚餐を頂いた。



桑港ヤマト・ホテル

8月31日 (水曜日)

10時、第25突堤に行つて、出帆まぎはの“龍田丸”を訪ね、同船で日本へ出發するベル1國使節團の Fuente 少將及び Bellido 博士に挨拶し、東京で再會を約した。船は13時出帆。

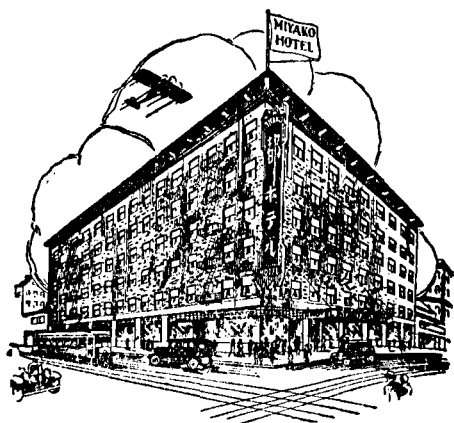
20時、第3街停車場發の列車で出發、南加に向ふ。

9月1日 (木曜日)

朝 8 時 10 分、無事ロスアンゲ
レス驛着。ミヤコ・ホテルに入
る。

14 時、彗星の長田政二氏來訪
せられ、一年ぶりで話す。17 時
からは木崎氏方を訪ね、晚餐を
頂き、21 時歸宿。

ロスアンゲレス市日本人街は
今日から全米二世の總會を開
くので、大賑はひである。照川
丸は本日入港した由。



羅 府 ミヤコ・ホテル

9月2日（金曜日）

午前、税務署へ出港許可證を貰ひに行き、次で領事館を訪ねた。

夜は東一條で、日本人二世歸米團の美しいパレードを見た。22 時、長田高
村兩氏來訪。

9月3日（土曜日）

朝 9 時、川崎汽船の代理店を訪ねて、来る 6 日乗船の事を打ち合はせ、10 時
半、岡崎氏方を訪ね、午餐を頂いた後、高木長田兩氏と共にオリンピック記念公
園にある博物館を見た。歴史以前の時代の壁畫その他、實に意外に陳列品の立
派で、豊富なのに一驚した。再來を期して 16 時半去る。

今夜 20 時から、東一條では又々大々的な日本人二世團のパレードがあつ
た。自分はホテルの露臺から之れを撮影した。

9月4日（日曜日）

約束により 0 時半から、長田高村高木 3 氏と共に長驅して、市の北部 Mojave
沙漠まで遠征し、久しぶりに東天の黃道光を觀る。4 時、薄明の始まる移り變
りまで、見事な現象を見、6 時半宿に歸る。

10 時、鶴浦師の教會で、青年たちにドイツの話しをなし、禮拜後、同師宅で
少憩、20 時からは合同教會で今井三郎師の講演をきく。

9月5日（月曜日）



ロスアンゼレス市の日本人發展の中心地

今日は所謂“労働デ1”で、全米國は休日である。10時からタイムス社前の所で盛んなパレードを見た。前後幾マイルも涉り、2時間を費した。中に、象26頭を引き出したのには驚いた！

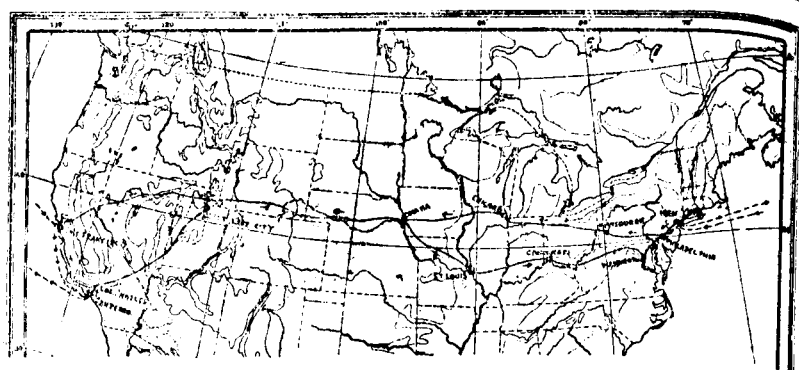
14時、高村氏來訪。今晚、長田氏急病で入院された由、大に心配する。昨曉の黃道光觀測行が無理であつたか？

午後は荷造り。18時、木崎氏方へ暇乞ひに行く。

9月6日（火曜日）

朝9時、鶴浦師の厚意により、送られて、サンビドロ港タ1ミナル島第230A突堤から中島船長と共に照川丸に乗り移る。照川丸は修理のため、一昨日來、沖に投錨中であるが、修理完了せざるため、出帆は明日に延期された。しかし乗船した以上は、日本服で、くつろぐ。岡野君も昨日から乗船してゐる。

夜は船室内で讀書。



北米大陸横断往復路

9月7日（水曜日）

午後に船の機関部の修理完了。17時半無事に抜錨。穏かな海上を、一路なつかしい日本に向ふ。夜、英子へ發電。

9月8日（木曜日）曇。

正午の船の位置、西經 $123^{\circ} 0'$ 、北緯 $35^{\circ} 5'$ 。航走 252 哩。

午後に波が少々高くなつて、船が揺れる。

9月9日（金曜日）曇。

正午の船の位置、西經 $128^{\circ} 58'$ 、北緯 $35^{\circ} 37'$ 。航走 294 哩。

風強く、波荒れて、船が揺れる。終日臥床。正午は食事せず。

今朝早く、NYK の太洋丸と本船とが近づいた。

9月10日（土曜日）曇。

正午の船の位置、西經 $135^{\circ} 10'$ 、北緯 $36^{\circ} 0'$ 。航走 302 哩。ロスアンゲレス港を去る 848 哩、横濱まで 4217 哩。

浪少しくおだやかであるが、北風尙ほ強い。船は積荷の都合上、大圏航路を取らず、ほぼ北緯 35° の線を西航する。

9月11日（日曜日）曇。

正午の船の位置、西經 $141^{\circ} 20'$ 、北緯 $36^{\circ} 0'$ 。航走 299 哩。

うねりが甚だしい。終日讀書。

9月12日（月曜日）曇。

正午の船の位置、西經 $147^{\circ} 59'$ 、北緯 $35^{\circ} 44'$ 。航走 324 哩。

チェコ問題のため、歐洲戰亂の兆ある由のニウスしきりに至る。

夜、23時半、英子より長電來る。其の中に、去る8月11日、倉敷天文臺の小山秋雄君の溺死を報ず。大に驚く。深夜眠らず。

9月13日（火曜日）曇。

正午の船の位置、西經 $154^{\circ} 20'$ 、北緯 $35^{\circ} 8'$ 。航走 312 浬。

風はほど納まつたが、まだうねりが強い。北方の航路はよほど荒れてゐるらしい。夜、久しぶりで晴れ、美しい星空を見る。

9月14日（水曜日）曇。

正午の船の位置、西經 $160^{\circ} 15'$ 、北緯 $34^{\circ} 54'$ 。航走 292 浬。

尚ほ、うねりのため、船が左右に 20° ぐらゐロリングする。讀書。

9月15日（木曜日）曇。

正午の船の位置、西經 $166^{\circ} 44'$ 、北緯 $34^{\circ} 43'$ 。航走 318 浬。

船は好調で、よく進む。気温も極めて順。空は快く晴れ、連日のうねりも殆んど納まつた。

9月16日（金曜日）曇。

正午の船の位置、西經 $173^{\circ} 20'$ 、北緯 $34^{\circ} 48'$ 。航走 327 浬。

うねり殆んど無し。

9月18日（日曜日）曇。

正午の船の位置、東經 $179^{\circ} 37'$ 、北緯 $34^{\circ} 56'$ 。航走 348 浬。

今日午前10時半に經度 180° の線を通過し、いよいよ西半球から東半球に入つた。それで、今日を9月18日(日曜日)とし、船の曆から9月17日(土曜日)を省くと、船長が決定した。終日、東よりの微風で、船はよく走るが、機關室は暑氣が甚だしい由。

A. N. 誌のために、故新城博士の小傳をかく。又、夕刻、デキに涼みながら岡野氏からキューバの土産話を聞く。夜は空がよく晴れて、東天高く水瓶座に大きい對日照を見た。22時、無線室で、久しぶりに JOAK の放送ニウスを聞く。

9月19日（月曜日）曇。

早晩、東北の天空に、アルゴル星の極小光を見た。

正午の船の位置、東經 $172^{\circ} 47'$ 、北緯 $34^{\circ} 58'$ 、航走 336 浬。

國際天文同盟黃道光部の委員を8名推薦する手紙をライデン天文臺のオールト氏に書く。午後は緯度變化問題の研究に費す。今後の問題としては、観測器械の改良と新案、寫眞観測の奨励、南半球の観測網を改め濠洲と南阿と南米と3ヶ所に設けること、北半球に於いても、水澤の代りに、もつと天氣の良い地點を撰ぶこと等である。

9月20日（火曜日）雨模様。

正午の船の位置、東經 $166^{\circ}04'$ 、北緯 $34^{\circ}58'$ 。航走 330 哩（推定）。

天氣が悪くなり雲多く、雨模様で、西南の強風が吹き、多少の難航である。終日、ゲーテのファウストを読む。又、夜は JOAK の午後7時と9時半との放送ニウスを聞く。歐洲の政局不安は去つたか？

9月21日（水曜日）曇、雨。

正午の船の位置、東經 $160^{\circ}04'$ 、北緯 $34^{\circ}58'$ 。航走 296 哩。

空は曇り、海にはうねりがある。今日は同船岡野氏の誕生日で、食堂は賑やかである。午後、黃道光問題につき、バウスフィールド氏とハウスマン氏とに手紙をかく。今後の研究上第一の問題は光輝の變動する現象を徹底的に確かめることで、之れがために、世界各地で同時観測群を組織しなければならない。

9月22日（木曜日）曇。

正午の船の位置、東經 $153^{\circ}38'$ 、北緯 $34^{\circ}58'$ 。航走 316 哩。

船は緯度圈に沿つて眞直ぐに西航してゐる。曇り、雨、うねり等、連日の通り。但し、身體はすつかり船に馴れた。

研究上の意見を述べて米國のスミス氏に手紙をかき、夜はファウストを読む。

9月23日（金曜日）曇。

正午の船の位置、東經 $146^{\circ}52'$ 、北緯 $34^{\circ}58'$ 。航走 333 哩。

無線室では朝7時半から高らかに JOAK のラヂオ體操曲が響いてゐる。もはや日本の領海内に入つたやうな心地である。しかし、東北風が強く、浪は可なり高い。颱風が八丈島の沖にあつて、東京灣に迫つて來ると、船橋無電は報じてゐる。空は曇り續けて、過去5ヶ日間、天體観測が出来ないと言つて、船長は少々心配顔である。

自分は、上陸が近づいたので、室内を片付け、荷物の整理をする。

歐洲の戰雲も愈々迫つて來たらしく、食堂の話題は之れで持ちきり。

9月24日（土曜日）

早朝、船長と無電局長は船橋と犬吠崎とを呼び出して、無線方位を決定したので、船の海上位置が判明した。豫想よりも少々南方へ船は流れてゐたらしい。10時、右舷に野島崎が見えた！

颱風は速度が鈍く、こちらへ近づいて來ないうちに、船は意外に早く東京灣に入つて、15時に横濱港外に着。16時に第10號浮標につながれた。自分は、まもなく、岡野氏と共に川崎汽船のランチで上陸し、正規の通り税關の検査を受け、18時、横濱驛發、新橋驛で岡野氏と別れ、19時マンペイ・ホテルに入つた。

前後3ヶ月餘にわたる慌だしい歐米旅行も茲に終つた。横濱發から歸着まで總計97ケ日、そのうち53ケ日を船の中に暮したわけである。米大陸は“す通り”にも等しい往復であつたし、歐洲で送つた日數も決して長いものではなかつたが、それでも、久しくあこがれてゐた中央ドイツのチウリングヤを一週間も巡歴したことゝ、北歐の涼しく楽しい夏を旬日にわたつて過した思ひ出は、永く盡きないことゝ思ふ。（終）

編輯室より

漸く春暖まる頃となり、昨夏物故した小山理學士の遺稿として天界に「ミラ型變光星に就いて」、銀河には「ぎよしや座く星に就いて」を掲げ、本邦に於ける變光星專攻の故學士の追福を祈る事とした。

新役員の顔觸れが紹介された、本會の事業も大いに期待がかけられてゐる際會員と共に折角の御協力を切望する。

本會の毎月の例會も下記の如く各地で盛況を呈する事であらう。東亞に何かしら新らしい機運が漲りつゝあるの時。（P.O生）

各地支部の例會豫定

京 都（京都市近衛通 樂友會館）	毎 月 第 1 月 曜
大 阪（大阪市四橋 電氣科學館）	同 第 1 土 曜
神 戸（神戸市元町1丁目 ビーハイヴ）	同 第 2 金 曜*
岡 山（岡山市門田18 水野氏邸）	同 第 2 土 曜
倉 敷（倉敷市 倉敷天文臺）	同 第 1, 第 3 土曜

* 七月は第1金曜